『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8　その 21

３度目のアイラ島へ（その２）佐伯　順弘（岐阜県）

Travel planning　2017

DAY2　16th　AUG　AUH→MAN→GLA
Stay　HolydayInnExpress　GLA
DAY3　17th　AUG　GLA→ILY
DAY4　18th　AUG　ILY
DAY5　19th　AUG　ILY

DAY2（16AUG2017）移動／

北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー
まだ，２日目アブダビでの乗換中である。
1021 着席。1045 定刻出発。すばらしい。

1237 昼食。基本的に，どの航空会社のどの機内食についても特に文句はない。それどころか，毎回とても楽しんでいる。しかしながら，わずかに違和感を感じるのが，プリンやゼリーが入っていそうな容器に水が入っているところだ。もちろん，こぼれないし，それほど水をがぶがぶ飲むわけはないので，全く問題ないのだが。
毎回，どうでもいいことを考えているとあっという間に時間が過ぎる。1815 機体はマンチェスターに到着した。ロンドン時刻に変更。４時間戻して，サマータイムで１時間進める。
****アブダビ時間 1815→ロンドン時間 1515
1600 イミグレーション通過。UK に入ったが，まだフライトは終わりではない。マンチェスターからグラスゴーへ飛ぶのだ。いったん入国してから，乗継かと思いきや，乗継エリアにもイミグレがあった。スマホと iPod を充電した後，探索を始めたら，迷ったのかと係員が声をかけてくれた。チケットをチェックしてもらって，COSTA のあるエリアに向かった。
1725 再び COSTA
カプチーノ，パニーニ，6.6GBP。カプチーノはミディアムなのにでかい。でかすぎ。腹がタポタポになってしまった。じゃ，飲むなよって感じなのだが，そういうの粗末にできないんだよね。昭和中後期型の量産機だから。全く関係ないが，このエリアはなぜか，子どもが多い。しかも，どういう訳か，みんな泣いている。乳幼児は泣くのが仕事みたいなものだから，別にいいが。自分は小学生頃までよく泣く奴だった。そういうこともあり，子どもの泣き声には寛容だが，それにしても多い。大量誘拐？などととんでもないことを想定したが，可能性としては極めて低いのは分かり切っている。
1954 やっと GATE142 に来いという表示が出たので，さっそく向かう。距離はあるが時間もあるので特に問題はない。
2000 着席 11A。2100 グラスゴー着。国際線ではないし，出るだけなので素早く，空港建物から脱出した。そして，辺りを探索すると目の前に，本日の宿泊場所があった。徒歩 15 秒か。
2123HolydayInnExpress 到着。チェックインして，部屋に入ったのが 2130。Room214。

十分な広さがある部屋だ。なんかかんやと食べたので，夕食は不要だった。カプチーノのゲップがまだ出る。若干高いが，空港の近くにあり，ちょっといい感じのホテルなので，乗継の時はここを利用するとしよう。街を探索する時は一度泊まったことのある EH（ユーロホステル）が安いし街を歩くには最適だ。
いいホテルはホテル内を楽しむことも大切にしているのだが，やはり疲れているし，明日も早いので素早く寝ようと努力する。しかし，案外やることが多くに真夜中になってしまった。
ベッドは予想通り，とても快適だった。
明日（17AUG2017）も移動。いよいよアイラ

島に到着する。アイラ島への道のりは長い。

DAY3（17AUG2017）移動／GLA→ILY

0600 起床。スコットランドらしい曇り空。それはそれで趣深い。アイラ島までは後１ピッチである。（解説：ピッチは登山用語として使用。）
0620 朝食。文句なく普通においしい朝食。いったい誰だ。イギリスの飯がまずいなどと・・。（以下省略。この下りは既に何度も使っているので，読者も飽きていることだろ う。）

0640 部屋に戻る。0705 チェックアウト。そして，空港まではゆっくり歩いて５分である。ホテルを出たら目の前に空港がある。
0714 航空会社 Flybe のチェックイン完了。後は待つだけ。0730 セキュリティチェックに向かう。0740 通過。あっさりしたものである。国内線なので，そういうものだろう。電光掲示板が見えるベンチに座り，スクリーンをぼんやり眺める。すると，それほどぼんやりする時間もなく，「GOTO GATE01」の表示が現れる。慌てて行っても，確実にそちらで待つことになるのだが，一歩でもアイラ島の近くに行きたくて，急いで GATE01 に向かう。５分後，GATE01 に到着。簡素な待合室は知っている通りの穏やかさで，のんびりを絵にかいたような雰囲気の中，30 分以上は待つつもりでベンチに座る。
（Flybe はもともと悪化の一途を辿る業績に加え，covid-19 の影響もあり，2020 年３月，ついに運行停止。2022 年復活との情報も流れているが，真相は定かではない。）
0820 想定外に早い。搭乗。0840 何と素早いテイクオフ。そして，0910 タッチダウン。
0917 空港の外に出る。アイラ島に到着。
0950　偶然だが，素晴らしいタイミングで，空港からボウモア（Bowmore）の街へ向かうバスに乗ることができた。30 待ちなど，このゆったりとした時間の流れの中では，全く問題ではない。アイラの地に降り立てば，瞬時に時間感覚はアイラに合う。やはりここは，自分にとってのアナザースカイなのだ。
1000 ボウモアの街に到着。2.0GBP（350JP¥）。
1020 バス停の近くにあるコープで水を買い，近くの観光案内所でしばらく検討の後，キルホーマン蒸留所（Kilchoman）への足を手配する。基本，安めの公共交通機関と徒歩で旅をしているのだが，今回初めて訪れるキルホーマン蒸留所への道のりは，徒歩でたどり着くには遠いと判断し，通常の行動基準を外してタクシーを手配してしまった。
1040 ボウモアの観光案内所前からブルイックラディ蒸留所（Bruichladdich）に向かうタクシーに同乗させてもらうことになった。そのタクシーには先客がいて，露骨に不機嫌そうな２人組だった。そりゃ，日本人以外の人々が誰もがフレンドリーではないので，時にはそういった方に出会うこともあるだろうが，アジア人の変な奴が乗ってきた的な不機嫌さを感じて大変居心地が悪かった。
1100 キルホーマン蒸留所着。この蒸留所はブルイックラディ蒸留所への経路の途中から北にそれた場所にあり，バスが通っていない。一般的にはタクシーで行くことになるが，徒歩で行ける距離である。（ちなみに飲んだ後 40km 歩いて帰れる歩行力は必須。）ビジターエリアはシンプルだが，コアレンジ３種類のテイスティングができ，感じのいい場所だった。味わいはどれもシンプルかつ強めだった。そういうタイミングだったのかもしれないが，観光客は少なかった。やはりバスで来られないのが原因かもしれない。
ボウモアを出発し，最初にブルイックラディで２人を降ろし，２人組が見学している間に１人キルホーマンへ送ってもらい，見学後ブルイックラディに戻るという行程だったのだが，足元を見られたか 30GBP（約 4500 円）だった。台湾で身に着いたタクシーはそれほど高くはないという感性がマイナスに働いたか，無理して都合をつけてもらった負い目か，料金を確認しなかった自分が悪いのだか。そもそも高かったら，利用しなかったかといえば，その選択はなく，利用せざるを得なかったのだ。
　予想外の出費にダメージを受け，失意の中，ブルイックラディ蒸留所前のバス停からボウモアコープ前のバス停まで，タクシーと比較すると哀しくなるくらいリーズナブルな料金で戻る。ボウモアコープから既に定宿となったボウモアホテルまではほんの数分。コープから海と反対側に歩き，最初の交

差点で左に曲がったらボウモアホテルまで 20 メートルくらいである。
1250 精神的な疲労が大きく，ベッドに倒れるとそのまま眠ってしまった。
　気が付くと既に外は暗くなっており，何時だか確認しないまま，とりあえずシャワーだけ浴びて，夕食を食べるのも面倒になって，そのまま本格的な就寝に入った。キルホーマン蒸留所で飲んだスコッチ３杯が意外と効いていたのかもしれない。テイスティングといっても味を見るだけというちゃちなものではなく，きちんとワンショットくるので，一気に３杯も飲めばそこそこ効くのだろう。そんなに弱くはないはずだが，通常の行動基準を破って，無駄な出費をした自分の弱さを悔いていたのかもしれない。大学生のころから続いている貧乏旅行の習性はそう簡単には抜けないのである。

DAY4（15AUG201）ILY

0600 さわやかな目覚め。アラームなしでジャストタイムに起床。そもそも 0600 起床などとは決めていなかったが。シャワーを浴びて，朝食に向かう。外は曇り空，庭の草木が激しく揺れている。風がかなり強いようだ。しかし，雨が降りそうな気配はない。スコットランドはいつもこんな感じである。
0745 朝食。定番のクックドブレックファストをオーダー。いわゆるスコティッシュブレックファスト。クックドとオーダーすると温かいものが供される。そうでないと，簡素な感じのものがすぐさま供されることになる。確かに量は多いが，スコットランドでもイングランドでも朝食で１日の栄養をすべて摂取するつもりで食事に向かうのである。（個人的見解）

　旨い。イングリッシュブレックファストとは少し違うスコティッシュブレックファスト。ブレッドもバターもオレンジジュースも本物の優しい味だ。満足して，部屋に戻る。
0910 今日のミッション遂行のため，ホテル出発。まずは観光案内所兼ショップでボウモアの地図を買う。昨日と同じ轍を踏まない。正しく冒険探検部らしい旅をするのだ。今日はブナハーブン蒸留所（Bunnahabhain）へ向かうための重要なアイテムである。そうなのだ，このドラクエ的な展開こそ，自分の旅の真骨頂だった。
1000 ボウモアコープ前のバス停からブナハーブン方面のバスに乗る。ちなみにブナハーブンまでのバスはない。運転手に話しかけ，ブナハーブンの近くまで乗せてくれないかとお願いする。やはり，スコットランドの人はいい人だ。すぐさま「いいよ。近くまで乗ってきな。」みたいな感じで，降りる場所までのチケットを売ってくれた。のんびりした気分で，バスに揺られる。車窓を流れる景色を眺めていると不意にバスが停車。バス停でも何でもない。「ここから，あっちの方へ行くとたどり着くよ。」みたいなことを言われる。感謝の言葉を述べ，バスを降りる。
　地図を確認すると，約5km。どうということのない距離だ。雲量は多いものの，晴れ間も見え，やや暖かくなってきた。（夏だから暑いのが普通だが，朝夕は寒いし，昼でも冷たい風や雨が降ることもある。）植生を観察したり，大きな池の場所を地図と照らし合わせたりしながら，ブナハーブンへの道をのんびり進む。
　途中，新しい蒸留所の建設現場を発見。何と来年開業だと？おいおい，今回でアイラ島の蒸留所をコンプリートできるはずなのだが，コンプリート期間が１年未満だと？いやはやびっくりである。ま，こういう最新情報と現地で接することができたのもうれしいことなので，特に文句はない。
　アードナホー蒸留所（Ardnahoe）。いつかまたアイラ島に来たときに訪れるとしよう。その時までには経営を軌道に乗せていてくれたまえ。
1127 のんびり歩いた割には，1 時間で 5km を踏破。ブナハーブン蒸留所着。1300 発の工場見学ツアーを予約。それまで，ショップや蒸留所のそばの港を散策する。疲れたのでキャンプ地にあるようなベンチで休んでいるとオランダ人の３人の若者に話しかけられた。ウィスキーを愛する者はそれだけで同士なのである。日本から来たと伝えると，「山崎を知っているか。」ときた。「もちろん，好きなウィスキーの一つだ。」と答えると，「あればうまいよ

ね。」と来る。全く関係者じゃないのにうれしくなる。オランダは日本だけで通じる言葉で，ネーデルランドもしくはホラントが通じる国名だ。ダッチはあまりいい意味ではないというくらいの教養があってよかった。本当に気分のいい３人組で，車で来ているという。車はフェリーに乗せてきたとのこと。なるほど，いつかドライバー役の酒を飲まない友人をスカウトできたら，レンタカーでグレートブリテン島からフェリーで訪れるのも楽しいかもしれない。途中までバスで来て，その先は歩いてきたんだと伝えると，「狂ってんのか？」と笑われた。
1300 ツアー開始。３杯のウィスキーをテイスティング。（ショットグラス１杯を 1Dram という。）それぞれの個性がはっきりしていて楽しかった。ツアーが終わり，さて歩いて帰ろうかと思っていると，先ほどの３人が途中まで乗っていかないかといってくれる。やはりウィスキーの探究者に悪い奴はいないのだ。「ヒッチハイクの作法その 1」に従い，全力の英語力で会話する。彼らは英語が得意だったので助かった。
1435 分岐点があるブリッジエンドという場所で降ろしてもらった。「良い旅を」「君も」と声を掛け合い別れる。いい気分だ。これが旅だよな。通常ヒッチハイクは乗せないのが鉄則だが，ウィスキー好きで話があったから載せてくれたのだろう。ウィスキー好きの絆は意外にも国境をあっさりと越えていた。そこから徒歩でボウモアへ向かう。
1536 あっさり 1 時間ほどでボウモア中心部に到着。疲れていたので，少し眠る。
1924 目が覚めたので，ホテルのバーに向かう。朝食ガッツリの後は，水１L を飲んだだけなので，空腹だった。がしかし，最初はビールである。ボウモアホテル特注？のスコティッシュエール 3.6GBP×2。味わい深い優しい味。
2008 レストランに場所を移して，フィッシュ＆チップス。かなり大きな白身魚のフライと山盛りポテト。昼食を抜いた分を軽くカバーして余りあるといったところ。
2034 部屋に戻り，シャワーを浴び，旅日記と出費記録をつけ，早々に寝る。それにしてもよく歩いた。歩いて飲んで，歩いて飲んだ。なんと健康的で充実した人生であることか。まだ，旅半ばである。
（つづく）

キルホーマン蒸留所

ブナハーブン蒸留所

アードナホー蒸留所建設地

ブナハーブン蒸留所と著者